

令和3年度 京都府立須知高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>【目指す教育】</p> <p>◆日本三大農業教育発祥の地「京都府農牧学校(蒲生野農学校、京都府農学校)」以来の歴史と伝統の継承</p> <p>◆「自主」「規律」「誠実」を校訓とし、心身ともに健康で、自主の精神に富み、根気よく学ぶ力と豊かな情操を身に付けた有為な社会の形成者を育成</p> <p>【目指す学校】</p> <p>◆地域と共に歩み、地域を支える人材を育成する学校</p> <p>◆土から食卓までを結ぶ新たな専門教育を拓く学校</p> <p>【目指す生徒】</p> <p>◆夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、未来を見通し拓く生徒 [展望する力]</p> <p>◆豊かな感性、人権意識、道徳心を身に付け、社会を担う責任を自覚し、自然、人、社会とつながる生徒 [つながる力]</p> <p>◆自らの目標を実現するため、失敗を恐れずに挑戦し、強くなややかな意志と健康でたくましく生きる生徒 [挑戦する力]</p>	<p>【成果】</p> <p>◆生徒の生活実態に応じた組織的な指導の推進、府教委指定地域創生推進校「リスタ須知・夢 無限大∞」を軸とするきめ細かな学習指導、生徒指導、進路指導により、個々の生徒に応じた学力向上、希望進路実現を図れた。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症対策に対応した臨時休業に伴う学びを保障するため、休業期間中の学習課題を課すとともに学校再開後には、行事の精選や長期休業の短縮による授業時間数の確保、また、各教科の指導計画を見直すとともにきめ細かな学習指導により年度当初の指導目標を達成することができた。</p> <p>◆新たな学習指導要領の趣旨に対応した教育内容の方向性を定めることができた。</p> <p>◆オンライン学習システム「スタディサプリ」を活用し、動画視聴をはじめ、宿題配信、定期考査後の振り返りやアンケート調査など新たなスタイルの教育活動を推進することができた。</p> <p>◆京丹波町内の小学5、6年生の保護者と中学生とその保護者を対象に本校のニーズを把握するアンケート調査を実施し、回答率は中学生96%、保護者75%であった。本校に対する率直な意見をいただき、学校改革に生かすことができた。</p> <p>◆広報活動では、コロナ禍で様々な制限がある中、今までの発想を転換した新たな広報活動に取り組み成果を上げることができた。</p> <p>◆「ハイスクール起業チャレンジ実践校」として京丹波学や地域探究ゼミ、京都府農牧学校の研究を通して地域活性化策を考案するとともに、食品科学科では地元食材を活かした加工品開発やウイードの森に関する研究、普通科における地域資源を活用した取組を実施することで広く情報発信することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>◆新たな学習指導要領の趣旨に対応した教育内容を一層、充実させること。</p> <p>◆家庭学習習慣の定着を図り、自分の将来に向け、高い志や目標を持ち、進路に対して積極的に挑戦すること。</p> <p>◆オンライン学習システム「スタディサプリ」の効果的な活用を進めること。</p> <p>◆地域との連携や保護者からの信頼関係を深め、地域と共に歩み、地域に貢献する教育機関としての役割を高めること。</p> <p>◆規範意識やモラルの高い、心身ともに健康な生徒の育成を進めること。</p> <p>◆ホッケー部員の全国募集により学校の活性化に繋がる取組を進めること。</p> <p>◆部活動の活性化に向け、加入率を高める方法を検討すること。</p> <p>◆京丹波町立中学生の志願者を増やすこと。</p>	<p>【学校経営主題】</p> <p>「生徒の可能性を伸ばす個別最適な学びと地域とつながる協働的な学びの実現」</p> <p>【重点項目】</p> <p>◆生徒個々の学力・学習状況を把握し、基礎学力の定着・向上を図る。</p> <p>◆生徒のつまずきに気づき、指導方法を工夫・改善する。</p> <p>◆家庭と連携して学習習慣を確立させ、家庭学習時間の確保を図る。</p> <p>◆オンライン学習システム「スタディサプリ」をより一層活用する。</p> <p>◆京丹波町をはじめ地域と連携した協働的な学びを展開する。</p> <p>◆農業の6次産業化の推進と地域資源を活用した新商品の開発</p> <p>◆京丹波町内の小中学校との校種間連携を積極的に進める。</p> <p>◆京丹波町の関係機関と連携したキャリア教育を推進する。</p> <p>◆コミュニティ・スクールを通して学校と地域の双方向の関係づくりを強化する。</p> <p>◆部活動と生徒会活動を活性化させ、生徒の自主性を育む取組を行う。</p> <p>◆ホッケー部員の全国募集と全国大会での入賞を目指す。</p> <p>◆茶道・古典・和知太鼓などの伝統文化に係わる教育活動の継承発展</p> <p>◆積極的な情報発信と生徒募集活動</p> <p>◆新学習指導要領に対応した教育課程の編成</p>

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
教務部	新学習指導要領に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に基づいた教育課程の編成・生徒募集を早急に進める。</li> <li>・学習評価の充実に向けて、教職員研修の実施、情報の提供に努める。</li> </ul>	B C	令和4年度入学生の教育課程の編成や観点別評価について考える機会を設けることはできた。しかし、来年度実施に向けて校内で十分な研修は行えていない。特に普通科におけるコースの在り方について手探りのままの生徒募集になってしまった。より具体的なコースのビジョンを方向付けることが必要である。
生徒指導部	自主活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動に関する情報発信を積極的にを行い加入率の向上を図る。</li> <li>・生徒会本部役員を中心に生徒会行事の満足度向上を図る。</li> </ul>	B A	第1学年の部活動加入が伸びず加入率が低下した。多くの行事が中止となったが、可能な活動について積極的に取り組むことができた。例年参加しているボランティア活動は行事やイベントの中止により参加できなかった。また、地域清掃活動についても天候不良により中止となった。
進路指導部	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の進路目標を踏まえ、個々の生徒の将来設計に繋がる進路学習を展開する。</li> <li>・FINEシステムやコンパスを活用して学力分析を充実し、模擬試験等の実施一ヶ月を目途に学力分析会を開催する。</li> </ul>	A B	キャリア形成に役立つ進路学習を展開できた。ICTの活用や学力分析結果のシェアは進んだが、学力伸長度合い等の目線合わせが不十分だった。スタサブの活用とりわけ課題配信やアンケート調査は進んだが、到達度テスト分析が不十分だった。

分掌 教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
保健部	生徒の健康状態を把握した上で適切な対応をとる。	・学校等欠席者・感染症情報システムや欠席者把握シートを活用し、体調不良者や欠席者を正確に把握することで、関係教員との連携を円滑にする。	B	<p>感染拡大防止対策に取り組み、かつ、新しい情報収集も心がけ適切な情報提供を行い、ほけんだより等を通して啓発活動を実施できた。また、昨年度に引き続きサーベイランスへの毎日の入力、欠席や登校生徒の状況を欠席者把握シートを活用して早期発見に努め対応することができた。</p> <p>管理職・教務部・学年・保健部間のよりスムーズな情報共有の仕組が今後の課題である。</p> <p>ゴミ分別ポスターづくり、感染防止のためのCO2濃度調査、手洗い石鹸の定期的な補充活動を行うことや啓発活動など積極的に行うことができた。</p>
		・昨年度に引き続き感染症予防のための情報収集や啓発活動を行う。	A	
人権教育部	人権学習の推進と人権意識を高める取組の推進	・各学年毎に人権学習を実施する。基本的人権に対する正しい理解をさせ、学校生活の中で人権を意識した行動が出来るように指導する。	A	<p>各学年の人権学習を実施することができた。人権学習を通してお互いの人権尊重の思いを持つことができるように指導した。視聴覚教材を用いる等、各学年で適した内容で実施した。1、3年生の人権学習において、人権委員が司会進行をしたり、ロールプレイを実施することで、共に学ぶ姿勢を作り上げることができた。また、人権委員会で、世界人権デーに向けて、標語・ポスターを作製し、12月8日～20日まで展示をすることで、人権啓発をすることができた。</p>
		・生徒会人権委員会の活動を充実する。	A	
農場部	農業クラブ活動の充実	・各種の発表会や競技会に向けた活動を推進し、大会での上位入賞を目指す。	A	<p>意見発表では全国大会で優秀賞を獲得できたのは大きな成果だった。府連大会では、来年度以降もフルエントリーを目指すとともに、より多く入賞できるよう指導していきたい。</p>
		・資格取得の充実を図る。	B	
第1学年部	学力の向上と充実を図る。	・授業、家庭学習に取り組み、学力の向上と学びの空間を大切にする。	B	<p>日々、教室環境の整備を行い、学習に向かう空間づくりに努めた。定期考査前には、放課後に自主学習会場として教室を活用し、学習する雰囲気づくりを大切にしたい。</p>
		・定期考査前に、計画的に学習に取り組ませる。	A	
第2学年部	進路実現に向けて主体的に行動し、学力を向上させる。	・家庭学習の定着と充実を図る。	B	<p>卒業を1年後に控え、進路学習等を通じて希望進路について具体的に考え、行動する生徒が増えてきた。宿題、提出物等の与えられた課題に対しては、ほとんどの生徒が取り組めたが、主体的な学習の取組については課題が残る。</p>
		・卒業後の進路について具体的展望を持つ。	A	
第3学年部	希望進路を実現する。	・家庭学習や自主学習の定着と継続を図る。	B	<p>進路指導部をはじめ、多くの先生方の指導により、学習に対して意識が高まり、ほとんどの生徒が希望進路を叶えることができた。</p> <p>資格取得については、クラスで差がみられ、全クラス資格取得に対して取り組ませるように仕組みなかった。進路決定後の学習に対する意欲が低下した生徒がみられた。</p>
		・模試や資格取得に挑戦し自分の可能性を広げる。	B	
学力向上 SA推進部	学力を向上させるための指導の充実	・家庭学習習慣の確立のため、学年部と連携し学習時間記録表を活用する。各教科で課題等を出していただき、毎日の平均学習時間「0時間」の生徒をなくす。	B	<p>学年部の協力のもと学習時間記録表を活用したものの、毎日の平均学習時間「0時間」の生徒がいた。オースタムセミナーで大学・企業訪問ができ、参加者の進路実現への動機付けができた。</p>
		・進路実現の動機づけを高める、校外での行事を計画・運営する。	B	
事務部	学校経営という視点を持った予算の執行	・特色ある学校づくりを進めるため、各分掌・教科や各種事業担当等と積極的に連携を図り、財政的な面から学校運営の一翼を担う。	B	<p>各分掌・教科と連携し、適切な予算執行に努めた。老朽化した施設設備の維持修繕と、学校の特色化・学力向上推進のための環境整備を、限られた予算の枠で両立していくことが今後の課題である。</p>
		・学力充実・向上のための予算の重点的な措置を行う。	B	

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
国語科	「ことばの力」を基軸とした基礎学力定着と学力伸長	・日常的な小テストを中心に基礎的な国語常識の定着を図るとともに、各種論文コンクールや作文の作成にあたってきめ細かな指導を行い、言語表現を豊かにさせる。	A	漢字テストや古語テスト等の小テストをはじめとして、音読や暗記の課題に取り組みさせることで、国語常識を定着させることができた。また、読書感想文コンクールで受賞する等の成果を上げることができた。 言語活動の中で、「書くこと」、「話すこと」には授業中に取り組みさせることができたが、「聞くこと」については、十分な取組ができなかった。 SAコースを中心に、大学入試に対応できるように演習を行ったり、グループワークや発表の場を設けたりすることで、学習に対する意欲が高まり、自主性や問題解決能力が伸長した。
		・互いの主張や論拠を吟味し、考えを広めたり深めたりといった「話すこと・聞くこと」に関する授業を展開し、思考力・表現力・判断力の向上を目指す。	B	
地歴公民科	進路実現に向けた学力向上を目指す。	・難関大学等、進路希望に応じた個別指導をきめ細かに行う。	B	進路希望に応じた個別指導をきめ細かに行うことができた。考査で思考力を問う問題を作るなど工夫することができた。
		・暗記だけでなく思考・表現力を培うことができるよう、定期考査の工夫をする。	A	
数学科	授業『改善』	・アクティブラーニングやICT活用(動的教材、スタディサプリ等)などの新たな指導法、及び考査の出題内容の改善などを可能な限り授業実践に取り入れる。	A	ICTを積極的に活用し、授業時間の短縮や視覚的な理解を図ることができた。また、新学習指導要領に向けて、3観点評価を試行することができた。来年度の評価基準については、他校の事例を参考に検討することができた。
		・新学習指導要領実施に向け、新科目に関する情報収集や、3観点評価に関する研究を行う。	A	
理科	進路実現に向けた指導体制の充実を図る。	・希望する進路の実現に向けて、生徒の課題に即した指導を展開する。	B	希望する進路の実現に向けて、計画的な学習方法の指導を行ったり、必要な問題演習の方法について指導した。
		・進路希望に応じた個別指導などにより、実現につながる学力の充実を図る。	B	
保健体育科	健康の増進と体力と精神力の向上	・毎時間の準備運動に有酸素運動や筋力トレーニングを取り入れ、体力を高める運動を通して体力と精神力を向上させる。	A	長距離走やトレーニングの授業において、体力や精神力の向上を図ることができた。 選択授業では、自らが計画した内容を仲間とともに協力して実施することができた。 実施可能種目が限定される中、授業展開において更に工夫が必要である。
		・自らの健康に関心を持ち、生涯を通じて意欲的に運動に親しめるよう、選択授業において自ら計画を立てて行う。	B	
芸術科	自己肯定感を高め、粘り強く取り組む力や挑戦する力を培い、実技能力を向上させる。	・言葉等で自らの想いや考えを記録・整理させ、自己の成果や課題に気づかせることにより、向上心を一層高め、より高い表現力を身に付けさせる。	A	生徒の頑張りや良い点をその都度伝えたり、生徒が自らの成長を実感できるよう毎時または単元毎に想いや考え等を記録させ、自己肯定感を高めさせることにより、課題に対して粘り強く取り組む力や挑戦しようとする力を身に付けさせることができた。その結果として、生徒の芸術における実技能力を高めさせることができた。
		・指導者が生徒の良い所を積極的に言葉にして伝え、生徒の自己肯定感を高めさせる。	A	
英語科	進路実現に向けた学力の定着と伸長	・「マナトレ」の活用をはじめ、多様な題材を用いて基礎基本を身に付ける。	A	毎時間マナトレを用いた自学自習の時間を設け、弱点を押しやることで、基礎学力の定着を図ることができた。 大学入学共通テストにおいては、英語総合(R+L)で須知高校平均127.4点(SA平均143点)と全国平均を上回る成績を残すことができた。 長期休業中の進学講習や放課後補習を通して、生徒の学力伸長に寄与できた。 授業内でスピーチ活動や、Show & Tell、プレゼンテーション等様々な活動を通して多面的評価をすることができた。 英検は、実施時期が定期考査期間と重なることが多く、受験者の飛躍的増加とはならなかったが、食品科学科や普通科SDコースからの受験者も増え、進路指導も含めて資格取得への関心を高めることはできた。
		・SAコースの授業展開を充実させ、学力向上を目指す。	A	
家庭科	生活を主体的に営む力の育成	・様々な体験活動・実習を行い、生活事象に関心を持たせる。	A	様々な教材を使った体験や実習を行ったり生活に関する課題を出し、興味関心を高める工夫をした。授業と生活をより関連付けるためにさらなる取り組みが必要である。
		・生活の中から題材を選び、授業と生活の関連性を感じられる授業を展開する。	B	

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
農業科	専門的な知識と技術を身に付けさせる。	・より具体的で分かりやすい授業を展開する。	B	資格取得の取組は例年通りできた。合格率を高めること、さらに上級の資格・検定への挑戦を促す指導をする必要がある。
		・資格取得を一層推進する。	B	
情報科	情報技術の学習を通じて、情報社会を生き抜く能力を育成する。	・コミュニケーションの手段としての情報の特性を理解し、円滑に活用する能力を育成する。	B	文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの活用を通して情報機器の円滑な活用能力を育成することができた。個人情報の保護などの分野について十分に扱えなかったことが課題である。
		・個人情報や知的財産権の保護など社会的責任を伴う問題についての理解と自覚を養う。	B	
総合的な探究の時間（1年）	「京丹波学」をとおして、京丹波町や須知高校の魅力を再発見し、継承する力を培う。	京丹波町の歴史・文化・自然・環境・産業・観光・スポーツ等について学び、理解を深めるとともに、地域社会の課題を考察する。	A	京丹波町の役場の方や社会福祉協議会の方を外部講師として迎えた講義・講演を通して、京丹波町の現状を知り、課題に気づき、考察することができた。
		須知高校と京丹波町の関係性について学び、今後、須知高校が地域社会に貢献する方策を考察する。	B	
総合的な探究の時間（2年）	課題の発見・問題解決の能力や自己表現力を身につける。	・生徒が自ら立てた課題の解決に向けて、主体的・協働的に学習を進める。	A	様々なデータベースを活用して情報を集め、整理し、まとめ、表現するまでの編集技術を養うことができた。地域の方との接点を今後増やしていくことが課題である。
		・情報収集・整理・分析やグループワーク・プレゼンテーション作成等を通して、自身の考えを表現し、まとめていく機会を作る。	A	
総合的な探究の時間（3年）	自己の在り方や生き方を見つめさせ、将来に対する具体的な展望を持たせる。	様々な社会問題に関心を持ち、その本質や構造を見つけ出す“課題発見力”を身に付け、問題解決に向けて何が出来るかを考える。	B	働くことについて自己分析を行った上で「前向き力」「考える力」「数字力」「実行力」の4つの力を軸として働くことの意義や目的を考え、自己の在り方や生き方について考えを深めさせることができた。
		希望進路の実現に向けた取組を進めるとともに、働くことの意義や目的を学ぶ取組を通して、望ましい職業観・勤労観を育み、自己の在り方や生き方を探る。	A	

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆中学生の進路志望は、生徒自身の希望のほか、保護者や友達の意見もかなり影響している。中学校との様々な交流事業を継続し、生徒数の減少に活路を見いだして欲しい。</li> <li>◆部活動は、人間関係を学ぶ場である。個人競技を充実させるなど、須知高校も部活動で魅力を引き出せないか。また、活性化させるために全員クラブ制にできないか。</li> <li>◆進学率や全国大会出場等の実績、学校の様々な取組をもっと「見える化」して報道機関等を通じてアピールしてはどうか。</li> <li>◆生徒数減少に対応するためには、何かを変えなければいけない。今が分岐点であり、変えるチャンスだと思う。地元、小中学校に須知高校の魅力を伝えるためPTAも協力したいと思う。</li> <li>◆地元の子は、地元で育てるということを保護者に伝えることが大切である。</li> <li>◆授業見学では、少人数が目立ったが、そのアットホームさを売りに出せないか。また、机の配置の工夫も必要である。</li> <li>◆教育活動の課題を細分化し、次年度に生かすとともに食や地域をキーワードにした教育活動の推進に期待する。</li> </ul>
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆体系的に整理したスクール・ポリシーをもとに組織的かつ計画的な教育活動を推進すること。</li> <li>◆新たな学習指導要領の趣旨に対応した教育内容を一層、充実させるとともにICT教育を推進すること。</li> <li>◆家庭学習習慣の定着を図り、自分の将来に向け、高い志や目標を持ち、進路に対して積極的に挑戦する力をつける指導をする。</li> <li>◆オンライン学習システム「スタディサプリ」の効果的な活用と到達度テストによる学力分析を一層進めること。</li> <li>◆地域からの信頼関係を深め、地域と共に歩み、地域に貢献する教育機関としての役割を高めること。</li> <li>◆規範意識やモラルの高い、心身ともに健康な生徒の育成を進めること。</li> <li>◆ホッケー部員の全国募集により学校の活性化に繋がる取組を進めること。</li> <li>◆部活動の活性化に向け、加入率を高める方法を検討すること。</li> <li>◆京丹波町立中学生の志願者を増やす取組を一層推進すること。</li> </ul>
---------------	---